

# MGU Chapel Letter

—第 31 号 2023 年 10 月 31 日— 発行：大学宗教センター

\* 2023 年度聖句 \*

「あなたがたの内に働いて、御心のままに望ませ、  
行わせておられるのは神であるからです。」

フィリピの信徒への手紙 2 章 13 節

## 11 月の大学礼拝スケジュール

【12 時 10 分～12 時 30 分 礼拝堂にて】



### 11 月の礼拝日程（説教者の氏名 ※敬称略）

- ・ 11 月 1 日（水） 竹迫 之（日本基督教団 白河教会牧師）
- ・ 11 月 6 日（月） 荒井 偉作（日本基督教団 名取教会牧師）
- ・ 11 月 8 日（水） 松本 のぞみ（日本基督教団 東北教区巡回教師）
- ・ 11 月 10 日（金） 栗原 健（大学宗教センター長）
- ・ 11 月 13 日（月） 金丸 真（仙台長命ヶ丘キリスト教会牧師）
- ・ 11 月 15 日（水） 西間木 順（東北学院榴ヶ岡高等学校 宗教主任）
- ・ 11 月 17 日（金） 佐々木 哲夫（学院長・宗教総主事）
- ・ 11 月 20 日（月） 須田 拓（東京神学大学教授、日本基督教団  
橋本教会牧師）
- ・ 11 月 24 日（金） 長谷部 弘（学長）
- ・ 11 月 27 日（月） 銭谷 幸器（仙台南吉成キリスト教会牧師）
- ・ 11 月 29 日（水） ティモシー・ジョン・フェラン（英文学科教授）

11 月 3 日（金）は祝日、22 日（金）は土曜振替のため礼拝はありません。

後期の礼拝は 1 月 19 日（金）まで行われています。ぜひご出席下さい。

【連絡先】 宮城学院キリスト教センター

TEL : 022-279-9558

Email : [christ-c@mgu.ac.jp](mailto:christ-c@mgu.ac.jp)



～ アドベントが始まります ～

点灯式のお知らせ

11月13日(月)16時30分～

今年も早くも、クリスマスを待ち望むアドベント(待降節)の季節が近づいて来ました。ベルタワールのクリスマス・イルミネーションを点灯する点灯式が、11月13日(月)16時30分に礼拝堂 / ベルタワー前で予定されています。当日は大久保直樹先生がメッセージを述べて下さるほか、中高音楽班などが演奏を担当される予定です。

なぜクリスマスシーズンにイルミネーションを点灯するか、ご存知でしょうか。それは、クリスマスが「わたしは世の光である」(ヨハネによる福音書8章12節)と言われたイエス・キリストの誕生を祝う季節だからです。イエスを通じて、神がいかに人間を愛し、私たちととことん共に歩んで下さることが明らかにされました。この愛を深く知る時、「光は暗闇の中で輝いている」(ヨハネによる福音書1章5節)とあるように、困難にあっても希望をもって歩み続ける力が与えられます。

ウクライナでの戦争が終わらないうちにパレスチナで新たな紛争が始まるなど、暗闇のように思える出来事が続いています。このような中でも、光り輝くクリスマスのもとしびを見る時には、闇を貫く希望があることを思い出しましょう。「希望はわたしたちを欺くことはありません。」(ローマの信徒への手紙5章5節)

## ✦ スケジュール確認 ～ クリスマス礼拝 ✦

### ☆ 大学・大学院クリスマス礼拝(礼拝堂)

日 時： 12月7日(木)：16時20分～17時50分

メッセージ： 川島堅二先生(東北学院大学文学部教授)

奏 楽： 戸田彩子先生(オルガニスト)

### ☆ 全学院クリスマス礼拝(礼拝堂)

日 時： 12月19日(火)：16時30分～17時45分

メッセージ： 大久保直樹先生(中高宗教主事)

奏 楽： 小野なおみ先生(オルガニスト)



## ✦ 静まりの豊かさ ✦



私たちの毎日は、実にせわしないですね。授業や課題について行くだけでもひと苦労ですが、アルバイトやサークル活動、ましてや就職活動などがあれば、なおさら忙しいです。しかも世の中は、「もっともっと、こうしなくちゃだめだよ」ということをグイグイ押しつけて来ます。「もう疲れた」と感じている人も、多いのではないのでしょうか。

そうした日常の中で必要となるのが、「静まる」ことです。

「静まる」と言うと、「何もしていない = 時間のムダ」と思えそうですが、そうではありません。沈黙の時を過ごすことは、自分自身を取り戻す時でもあります。そのように立ち止まる時が無いと、だんだん心がすり切れてしまいます。

大昔の中東の話に、このようなものがあります。

ある賢者のところに何人かの人が訪ねて来て、人生の知恵を求めました。

その賢者は、ちょうど水ために桶で水を注いでいるところでした。彼は客たちに、「水ための中を見なさい。何が見えますか」と尋ねます。

水を注いだばかりなので、水ための中では水が揺れています。彼らは、「何も見えませんよ」と答えました。

何分かして、賢者は再び彼らに言いました。「もう一度、水ための中を見てみなさい。」彼らが覗き込むと、水は静まって、そこに自分たちの姿が映っていました。そこで彼らは、「今は、私たちの顔が見えます」と言います。

すると賢者曰く。「水が波立っているうちは、自分の姿は見えない。水が静かになれば、自分の本当の姿が分かる。このことを覚えなさい。」

私たちがしんどくなるのは、頭や心を始終波立たせて、自分自身を見失っているからではないのでしょうか。これでは、「忙しく走り回っているのに、何も残らない」ということになりかねないです。そうならないよう、あえて立ち止まる時を持つことも大事になります。

毎週の礼拝の時間も、そのように心を静める時として過ごすことができます。クリスマスが近づくこの季節、沈黙の豊かさを味わうことを学びましょう。 (栗)

〈写真〉 豎琴を弾くダビデ王 ドイツ、メルゼブルク城